

高品質麦の安定生産に向けた支援活動

■ 管内の麦生産者 ■

(西讃農業改良普及センター○河田和利、坂口幸雄、山田浩三、岩井正直、池田晃一郎)

●対象の概要

麦類は西讃管内土地利用型農業の基幹作物であり、近年、経営規模が拡大傾向にある生産者にとって、経営の安定に重要な品目の一つとして位置付けられている。令和2年産麦類は、個別経営や集落営農等を合わせ113経営体で、353.2haが栽培されている。作付面積は、県内全体(2,876ha)の約12%を占めており、麦種別(小麦、はだか麦)、地域別(観音寺市、三豊市)ともに微増傾向にある。

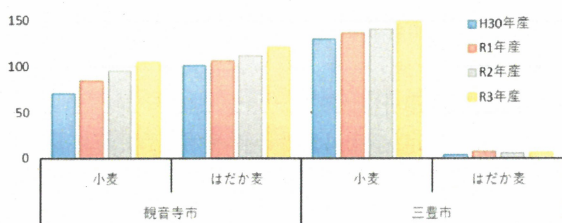


図-1 麦種別作付面積の推移・ha

表-1 麦作経営体数

	個別	法人・集落	計
観音寺市	68	9	77
三豊市	31	5	36
計	99	14	113

●課題を取り上げた理由

麦は実需者から高品質で安定した供給が求められているが、播種前から収穫期まで、栽培期間全般にわたる気温、降雨等の気象条件の影響を受け、作柄の年次変動が大きくなる作目である。

令和2年産は前年に続き豊作となったが、近年の動向を振り返っても単収、品質が低下する年も多く、恒常的に生産の安定化が求められている。

表-2 麦種別近年の作柄動向(香川県)

麦種	年産	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
小麦	単収kg/10a	241	333	278	375	317	297	282	364	321	443
	作況指数	73	106	91	122	100	96	95	121	101	140
はだか麦	単収kg/10a	286	311	280	379	269	268	245	317	288	429
	作況指数	90	103	95	125	85	88	87	112	100	151

●普及活動の経過

1 生産者の体制整備支援

麦を含めた水田農業における担い手農業者の生産力を確保するため、目標年度となる令和4年に、7経営体で15ha拡大を目指し、作付け拡大、省力・効率化が図れるよう営農用機械の導入整備事業の円滑な推進を支援した。

表-3 生産力向上機械等導入事業の概要

	事業内容(導入機械)	件数
観音寺市 三豊市	トラクター、自脱型コンバイン、 施肥播種機等	7

2 生産の安定化支援

1) 栽培講習会の開催

講習会を豊南地区、高瀬・豊中地区、観音寺地区の3地区で開催した。令和2年産麦が収量・品質共に良好であった要因について、作柄不良年の状況を参考にして管理対策を確認するとともに、令和3年産麦の単収増や品質向上に資するための栽培管理技術や生産安定化に向けた情報提供を行った。

表-4 栽培講習会概要

月日	場所	参加者(人)	内容
9.17	JA大野原支店	10	・R3年産の作付方針
9.18	JA高瀬支店	21	・R2年産の栽培概況
9.24	JA三豊地区営農センター	19	・R3年産栽培管理対策

注) R3、R2は令和の年産



麦作講習会の開催

2) 展示ほ・実証ほの設置

小麦の単収や品質の向上対策を図るために、
 土壌改良資材の効果確認や追肥法の改善を検討
 した。また、県奨励品種選定に資する現地栽培試
 験ほ場を設置し、有望度の評価を行った。

また、栽培期間中の主要な時期(幼穂形成期、
 成熟期)には現地検討会を開催し、関係機関と
 の情報共有を図った。

表-5 展示ほ場の設置

課題	設置場所	品種
土壌改良資材の効果確認	三豊市豊中町	さぬきの夢2009
止葉抽出期追肥法の検証	観音寺市大野原町	さぬきの夢2009
奨励品種決定調査・小麦	三豊市高瀬町	香育31号
奨励品種決定調査・裸麦	観音寺市大野原町	四国裸132号



現地検討会の開催

3) 栽培管理情報の発行

情報の発行は、栽培期間中5回実施し、生育状
 況に対応した管理作業の効果的な実施をすすめ、
 生産技術の高位平準化を図った。

麦類栽培管理情報① ~初期管理~

西讃農業改良普及センター
 令和2年10月20日

令和2年産麦も安定生産を目指しましょう!

昨年は、11月の播種期に好天が続き、土壌条件も良く播種作業が順調に進みました。その後、
 連年の影響で生育期間を通して乾ばり気味が高くなり、成熟期も降雨が少なく、収穫作業も順調
 に進み、前年度に続き収量が多い年となりました。

【県内・標準】小麦：3.95kg/10a、はだか麦：3.55kg/10a

令和2年産も引き続き、基本技術の励行により高品質、安定生産に取り組みましょう。

1. 排水対策(播種前) ~麦作りは水稲収穫直後から!~

水稲収穫以降、麦播種期までの降雨は作業の遅れとともに適期播種が困難となります。また、土
 壌水分が高い状態での播種は、出芽不良や、栽培期間を通じて生育不良への影響が懸念されま
 す。特に、水稲後作の発生予定地域では、水稲収穫直後から排水対策に取り組み、ほ場の早期乾
 田化を図りましょう。

1) 明渠の設置



排水溝を設置

排水口へ接続

2) 事前洗耕



根株を砕くよ
 うに表層のみを洗
 耕する。
 耕層深：3~4cm

麦類栽培管理情報(抜粋)

表-6 栽培管理情報配布実績

No	課題	配布月	内容
1	初期管理	10	排水対策、適期播種
2	中期管理	12	肥培管理、踏圧、土入れ
3	後期管理	2	雑草防除対策、肥培管理
4	病害虫防除	3(予定)	出穂期予想、適期防除
5	適期収穫	5(予定)	収穫期予想、適期収穫

4) 集落営農組織を対象とした麦作推進

麦作に取り組む集落営農の7組織(立石、一ノ
 谷、石上、竹田、笠田東、西ノ谷、油井)に対し、
 作付推進に取り組むとともに、現地巡回を実施
 し生育に応じた栽培管理の支援を実施した。

●普及活動の成果

1 生産面積の拡大

令和元年産麦以降、播種期をはじめ生育期間
 中の天候に恵まれたことが背景にはあるもの
 の、上記の取組みを通じて、小麦、はだか麦と
 もに作付面積は増加傾向に推移した(図-1 参
 照)。(H30産305ha、R1産334ha、R2産352ha、
 R3産380ha)

2 生産の安定化

生産の安定には、ほ場条件や生育状況に応じ
 た排水対策、適期播種、肥培管理など基本技術
 の励行が求められる。講習会の開催、栽培管理
 情報の提供や、適期収穫の個別支援などを通じ
 て生産者意識の啓発に努めた結果、単収、品質
 の維持確保が図られた。(R2産小麦：単収
 439kg/10a、1等比率79.2%、はだか麦：単収
 358kg/10a、1等比率100%)

●今後の普及活動の課題

1 実需者ニーズに応じた安定生産支援

2年連続の豊作による需給ミスマッチが生
 じており、麦種ごとの情勢を反映した作付誘導
 が求められている。これまで醸成してきた作付
 意欲を維持するためにも、生産者の栽培の安定
 化に向けて、生産の不安定要因を抱える個別の
 課題解決に対する継続的な対応が必要である。

2 経営安定化のための支援

経営規模の拡大とともに、天候の影響による
 適期作業の実施に対するリスクは高まっている。
 基本技術の励行とともに、現場技術の改善
 や今後見込まれる品種導入に対する現場実証、
 円滑な普及を通じて、麦作経営の安定化を支援
 する。